

ヤイロチョウ Pitta brachyura(八色鳥)



(撮影：植松)

<p>識別のポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・黄緑、黄、黒、茶、赤などの華やかな色に彩られた鳥。 ・早朝に「コヒーコヒー…」と大声で鳴く。 																								
<p>大 き さ：スズメより少し大きい 生息環境：主として常緑照葉樹林 繁殖場所：森林内の地上 餌：ミミズなど 鳴き声：「コヒーコヒー…」など</p>	<p>天竜川における生息時期</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12月</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td style="background-color: #0070C0;"></td><td style="background-color: #0070C0;"></td><td style="background-color: #0070C0;"></td><td style="background-color: #0070C0;"></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table> <p>繁殖期</p> <p>渡り区分：夏鳥</p>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月														

一般習性・分布

- ・夏鳥として常緑広葉樹林、または落葉広葉樹林などに渡来する数少ない鳥。繁殖地は局地的で、西日本の一部と長野県の南部に限られている。
- ・地上を素早く動きまわり、ミミズや昆虫を捕らえる。ヤブの中に入って、なかなか姿を見せない。
- ・環境庁のレッドデータブックにおいて、絶滅危惧種に指定されている。

天竜川上流における生息状況

本州での数少ない繁殖地が天竜川沿いにある。1980年代になって発見され、ほぼ毎年繁殖が確認されているが、その数は数つがいと考えられる。個体数が少なく、極めて貴重な繁殖地であるため、本書では分布地の図示は避けた。

コラム レッドデータブック

レッドデータブックとは、「絶滅のおそれのある野生生物は何か」、「今後絶滅の危険にさらされる可能性が高い種はどれか」ということを明らかにするためにつくられた、生物のリストです。

まず、IUCN（国際自然保護連合）が世界中の生物を対象にしたRed List（レッド・リスト、1988年）をつくりました。その後、日本国内の生物を対象に、環境庁が「日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 」を1991年から刊行し始めました。本書で扱っているレッドデータブックは、この環境庁版です。

さらに近年、「 県版レッドデータブック」というような、地域単位で「絶滅の危険性」を検討する動きが出てきました。生物の生息状況は全国一律ではありませんから、これは当然の動きといえます。ちなみに、長野県では統一的な「絶滅の危険性」の区分（カテゴリーと呼んでいます）に沿ったものはまだつくられていません。

環境庁版レッドデータブックのカテゴリーは、1988年のIUCNの区分に従い、一部変更を加えて以下のようになっています。

絶滅種 : 我が国ではすでに絶滅したと考えられるもの

絶滅危惧種 : 絶滅の危機に瀕しており、現在の状況が続けば絶滅する可能性が非常に高いもの

危急種 : 絶滅の危険が増大しており、現在の状況が続けば近い将来、絶滅危惧種となりうるもの

希少種 : 現在のところ絶滅危惧種や危急種には該当しないが、生息条件の変化によって容易に絶滅の危険性が高まるもの

地域個体群 : 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

さて、天竜川に生息している種にも、これらのカテゴリーに該当する種があります（下表）。もちろんこれらの種だけを保護すれば良いということではなく、重要性をランク付けするだけでは何の解決にもなりません。大切なことは、生息する環境全体がバランス良く保たれるよう配慮することなのです。

天竜川に生息しているレッドデータブック記載種（迷鳥は除く）

カテゴリー	種 名
絶滅危惧種	ヤイロチョウ
危急種	ミサゴ、オオタカ、ハヤブサ
希少種	チュウサギ、オシドリ、トモエガモ、ハチクマ、ハイタカ、コアジサシ、ブッポウソウ

ヒバリ *Alauda arvensis* (雲雀)



(撮影：山上)

上空でさえざる

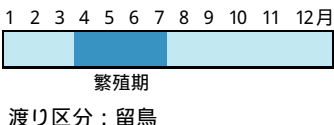


識別のポイント

- ・複雑な声でさえざりながら、上空高く舞い上がる。
- ・「ピュルッ、ピュルッ」とも鳴く。

大 き さ : スズメより少し大きい
 生息環境 : 草原、河川敷、耕作地など
 繁殖場所 : 草地の地上
 餌 : 草の種子、昆虫など
 鳴き声 : 「ピュルリピリリピーチピーチ…」など複雑な声で鳴く

天竜川における生息時期



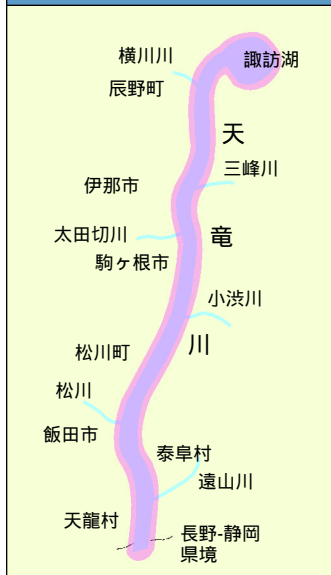
一般習性・分布

- ・留鳥として河原、草原、耕作地など丈の低い草がまばらな、露出した地面の多い乾燥地に生息する。
- ・草の根元にくぼみをつくり、枯草や細い根などを敷いて皿形の巣を造る。
- ・繁殖期には、オスがなわばりの上を複雑な声でさえざりながら、長時間飛び続ける。地上の石の上でもよくさえざる。
- ・秋から冬には小さな群れで行動していることが多く、「ピュルッ、ピュルッ」と鳴きながら移動している姿が見られる。

天竜川上流における生息状況

広い河川敷を持つ区間に生息する。イネ科の植物やカワラヨモギがまばらに生えた寄洲や中洲に多い。松川町鶴部の繁殖例では、シナダレスズメガヤ（イネ科の植物）の株の根元に営巣していた。

天竜川上流における分布



ツバメ *Hirundo rustica* (燕)

人間の生活している建物に営巣する



(撮影：戸谷)

識別のポイント

- ・尾羽根の先が深く切れこんでいる。
- ・のどが赤く、腹が白い。

大きさ：スズメより少し大きい

生息環境：市街地、集落

繁殖場所：人家の軒先など

餌：飛翔昆虫

鳴き声：「(飛びながら)キュリッ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分：夏鳥

一般習性・分布

- ・夏鳥として市街地や農村などに渡来する。人間の生活圏との結びつきが極めて強く、住宅や人間の出入りする建物のない場所には営巣しない。
- ・水田、草原、川、湖沼などの上空を飛び回って飛翔中の昆虫を捕る。
- ・電線などにとまり、「チュジュルチュジュルジルルチリ…」などと複雑なさえずりを行う。
- ・人家などの軒下や屋内に営巣する。ぬれた土をくちばしにくわえて運び、枯れ草やワラを混ぜて皿形の巣を造る。
- ・渡りの時期には河原のヨシ原などに多くの個体があつまる。

天竜川上流における生息状況

夏鳥として全域で見られるが、周辺に人家のない森林に接した区間には少ない。橋などに集団で営巣するイワツバメと異なり、河川敷内で繁殖することはほとんどない。

天竜川上流における分布



イワツバメ *Delichon urbica* (岩燕)

識別のポイント

- ・尾羽根の先はM字型に切れ込んでいるが、飛んでいるときは平らに見えることが多い。
- ・のどから腹、腰が白い。

大きさ：スズメと同じくらい

生息環境：山地、市街地、集落など

繁殖場所：岩壁、人工構造物など

餌：飛翔昆虫

鳴き声：「ジュッ」「ジュリリ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



繁殖期

渡り区分：夏鳥

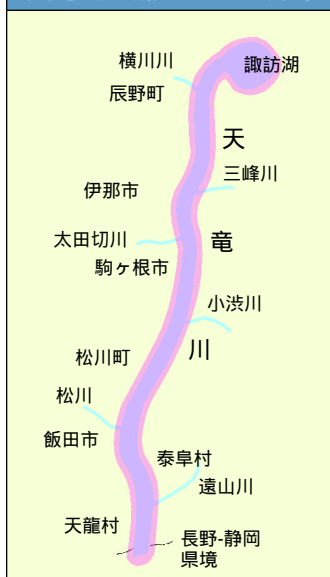
一般習性・分布

- ・夏鳥として低地から高山帯まで広く分布する。
- ・水田、草原、川、湖沼などの上空を飛び回って、飛翔中の昆虫を捕る。
- ・本来は山地の崖や海岸の岩壁に営巣することが多かったが、近年では橋やビルディングなどの建物にも多く営巣するようになった。集団繁殖する。
- ・巣はツバメと同様、土で造られるが、ツバメとは形が異なり、上部を天井に密着させ、その一部にすき間をつくって出入り口とする。

天竜川上流における生息状況

橋に営巣する鳥の代表として、全域の橋に大小のコロニー（集団繁殖地）が見られる。1995年秋の渡りのシーズンには、完成間もない南宮大橋の最上部に数100羽が集合して乱舞しているのが見られた。

天竜川上流における分布



キセキレイ Motacilla cinerea(黄鶺鴒)

冬羽



(撮影：戸谷)

識別のポイント

- ・腹が黄色く、背中が灰色のセキレイ。
- ・近い仲間のハクセキレイやセグロセキレイは、羽色が黒と白だけなので区別がつく。

大 き さ：スズメよりやや大きい
 生息環境：河川、溪流、水田、湖沼など
 繁殖場所：石垣、人工構造物など
 餌：水生昆虫、陸上昆虫、クモなど
 鳴き声：「チチン、チチン」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分：留鳥

一般習性・分布

- ・留鳥として低地から山地の川、湖沼などの近くに生息する。低地だけでなく、他のセキレイが姿を見せない溪流部に多く生息している。
- ・地上や水辺を活発に歩いて昆虫やクモなどを食べる。
- ・水に近い崖のくぼみ、石垣の間、人家の軒下などを利用し、枯れ草や細根を使って皿形の巣を造る。
- ・立ち止まっている時や飛んできて降りた時には、尾を激しく上下に振る。

天竜川上流における生息状況

留鳥として全域で見られるが、冬は南へ移動するものがあるため、数が減る。

天竜川上流における分布



ハクセキレイ Motacilla alba(白鶺鴒)



市街地の看板にねぐらをとる



識別のポイント

- ・顔が白く、背中が灰色、または黒。
- ・キセキレイとは羽色が異なり、セグロセキレイとは鳴き声が異なる。

大 き さ : スズメよりやや大きい
 生息環境 : 河川、溪流、水田、湖沼など
 繁殖場所 : 地上の石の間、人工構造物など
 餌 : 水生昆虫、陸上昆虫、クモなど
 鳴 き 声 : 「チチン、チチン」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分: 留鳥または冬鳥

一般習性・分布

- ・低地の海岸地方、河川、湖沼などの水辺を中心に、その周辺の水田、集落、市街地などに生息する。かつて本州中部では冬鳥であったが、徐々に繁殖分布を南下させ、1980年代になって長野県でも繁殖するようになった。
- ・冬になると、木の茂みの中、橋の下などに集団でねぐらをとる習性があり、1,000羽以上集まることもある。

天竜川上流における生息状況

天竜川では1991年に高森町で初めて繁殖が確認されて以来(P.83参照) 現在も繁殖分布を拡大中である。冬は北方から南下してきたものも合流し、数が増える。天竜川沿いにいくつかのねぐらが知られているが、いずれも街灯がこうこうと照らされる市街地にある。飯田市では、大型電気店の看板をねぐらとしていた。

天竜川上流における分布



コラム 都市環境に進出するハクセキレイ

河川や集落などで見かけることの多い黒白のセキレイは、1種類と思われがちですが、実際にはセグロセキレイ、ハクセキレイの2種類があります。この2種は姿、形ともわずかの違いしかない近縁種です。

セグロセキレイは日本の固有種（地球上で、日本国内しか分布していない種）で、ほぼ全国に生息しています。これに対しハクセキレイの生息地の中心はカムチャッカ半島周辺の海岸部です。国内では、1930年代までは北海道の海岸部で繁殖していただけで、本州では繁殖していませんでした。ところが、1940年頃から海岸部に沿って繁殖分布を南に広げ、現在は本州のほとんどの地域の海岸部で繁殖しています。また、1975年頃から大きな河川に沿って内陸部にも繁殖分布を広げています。

伊那谷では、1991年に高森町の明神橋で初めてハクセキレイの繁殖が確認され、その後天竜川沿いの地域を中心に急速にハクセキレイの繁殖分布が拡大しています。現在も拡大中で、天竜川を中心として流域へ広がりつつあります。

現在ハクセキレイが繁殖分布を拡大している地域には、セグロセキレイがすでに生息しています。セグロセキレイは、ハクセキレイから分かれて独立した種になったと考えられていて、両種は分類学的にも非常に近い種です。つまり現在の状況は、セグロセキレイの生息している地域に近縁種のハクセキレイが侵入してきているととらえることができます。そこで1994年、1995年に飯田市松尾の天竜川沿いの地区で両種の営巣場所について調査を行いました。ここは早くからハクセキレイの繁殖が始まった場所です。

2年間の調査の結果、地上から巣までの高さ（地上高）について違いがみられ、ハクセキレイは平均399.6cm、セグロセキレイは平均122.2cmでした。このことから地表近くにセグロセキレイが、高いところにハクセキレイが営巣すると考えられます。またセグロセキレイは3m以上の高さに営巣しないのに対し、ハクセキレイは36～710cmに営巣していて、ハクセキレイの方が低いところから高いところまで営巣していました。

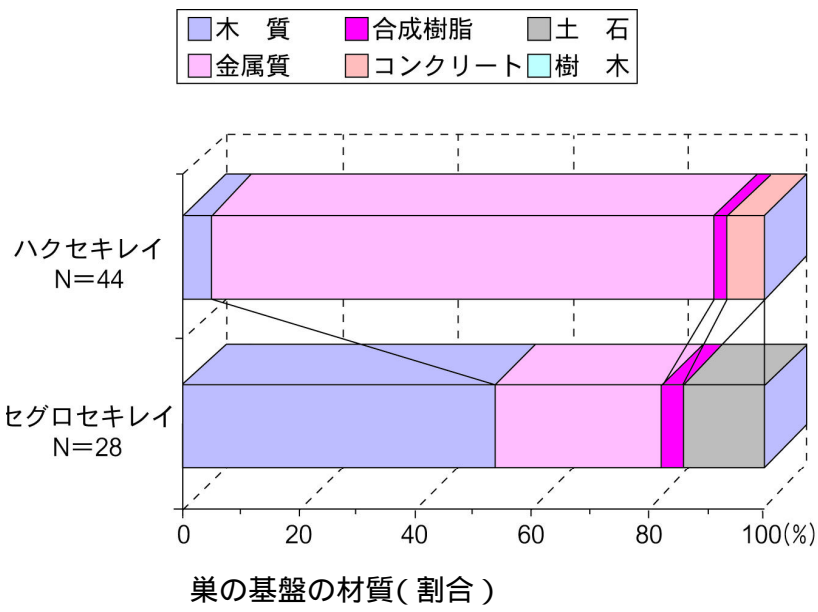
巣をつくる場所の材質についても違いが見られ、セグロセキレイが木製のものに営巣する割合が高いのに対し、ハクセキレイは金属質、コンクリートなどの人工物に営巣する割合が高くなっていました。

ハクセキレイの本来の生息地であるカムチャッカ半島では、ハクセキレイの営巣環境は非常に多様で、急な崖のくぼみや岩の裂け目、小さな灌木

に被われた地上のくぼみ、木製や金属製の構造物のすき間、人家の軒下などに営巣するそうです。今回の調査結果と合わせて考えてみると、ハクセキレイの方がセグロセキレイよりもいろいろな場所に営巣できると考えられます。セグロセキレイは、ハクセキレイから分かれて独立した種になっていく過程で、日本の環境に合わせて特殊化し、ハクセキレイよりも営巣場所の選択範囲が狭くなったのでしょう。

これらのことから、現在の状況はいろいろな場所に営巣できるハクセキレイが、セグロセキレイの利用していない環境を利用して営巣し、先住種であるセグロセキレイの生息域に侵入してきていると考えられます。つまり、ハクセキレイはセグロセキレイの利用していない工場、ビル、橋などの大きな人工構造物のすき間などを利用し、現代の都市的環境のつながりを追って繁殖分布を拡大していると考えられます。

(桐生尊義)



セグロセキレイ *Motacilla grandis* (背黒鶺鴒)

(撮影: 松村)

識別のポイント

- ・目の上と額を除いて頭が黒いセキレイ。
- ・キセキレイとは羽色が異なり、ハクセキレイとは鳴き声が異なる。

大 き さ : スズメよりやや大きい
 生息環境 : 河川、溪流、水田、湖沼など
 繁殖場所 : 地上の石の間、人工構造物など
 餌 : 水生昆虫、陸上昆虫、クモなど
 鳴 き 声 : 「ピピッ、ピピッ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分: 留鳥

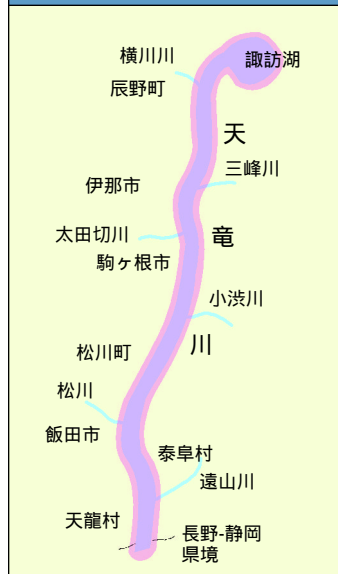
一般習性・分布

- ・留鳥として様々な水辺に生息する。特に河川の中流から下流部の砂礫地のある河川敷に多い。
- ・昆虫を主食とし、水辺の地上、湿った水田の地上などを歩いて餌をついばむ。また、飛翔昆虫を飛びながら捕らえることも多い。コンクリート護岸上でもよく採餌する。
- ・春早くから繁殖し、河原の石のすき間、水に近い土手のくぼみ、人家のすき間などに営巣する。枯れ草を使って皿形の巣を造る。

天竜川上流における生息状況

全域で最も普通に見られるセキレイ。特に広い河原を持つ区間では多いが、ダム湖付近でも頻繁に見られる。現在のところ、習性のよく似たハクセキレイとは共存しているように見えるが、今後の両種の種間関係の変化は興味深い(P.83参照)。

天竜川上流における分布



タヒバリ Anthus spinoletta(田雲雀)

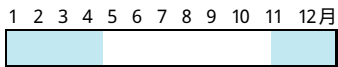


識別のポイント

- ・褐色を基調とした地味な羽色の鳥。
- ・セキレイ類と同様、尾を上下に振る。

大 き さ : スズメより少し大きい
 生息環境 : 水辺、畑、休耕田など
 繁殖場所 : (日本では繁殖しない)
 餌 : 草の種子、昆虫など
 鳴き声 : 「ピッ、ピッ」など

天竜川における生息時期



渡り区分 : 冬鳥

一般習性・分布

- ・冬鳥として河川や湖沼などの水辺、海岸の波打ち際などに生息する。冬羽は褐色を主体とした目立たない羽色であるが、4月の渡り直前には、胸から腹がほんのり赤みがかかった夏羽の個体も見られる。
- ・基本的には昆虫食であるが、冬はイネ科、キク科などの地上にごぼれ落ちた種子を多く食べる。

天竜川上流における生息状況

冬鳥として、広い河川敷や近くに耕作地がある区間に渡来する。ダム湖などではほとんど見られない。渡りの時期にはよく似たビンズイも河川敷内にいることがあり、識別が難しい。

天竜川上流における分布

